

# “Experience with Electric Buses for Urban Public Transportation”

## Keihan Bus Corporation



2024年5月08日

# “Initiatives for the Future”

## Autonomous Buses



## Electric Buses



# Introduction of Electric Buses

- In 2017, starting considering introduction
- In 2018, inspection visit to the BYD Head Office in Shenzhen, China



# Electric Bus initiative

**Operation Start in Dec.2021**

**First in Japan ! Large E-bus demonstrations**



京阪バスが京都で「電気バス」導入して実証実験 温室効果ガスも燃料費も削減可能

更新：2021/02/24 17:49

ツイート



As of March 2021

**There are 160 reports in Japanese, 450 in Chinese, 400 in English and 100 in French !**

を導入し、効果を検証することになりました。

京阪バスが実証実験を行うのはJR京都駅や京阪七条駅などをまわる路線で、新年度から4台を電気バスに切り替えます。電気バスはフル充電で約200km走行可能で、二酸化炭素の排出量が1台あたり年間約3.9トン削減できるということです。また燃料費も3分の1に減らすことができ、5年の実証実験で温室効果ガスの削減効果や充電のタイミングなどを確認することになっています。

(京阪バスICT推進部 大久保園明さん)

「脱炭素社会の取り組みに寄与する部分もごさいます。運営費用の安さも今後のバス運行で重要だと思います。」

これに伴い京阪バスは関西電力などと協定を締結。効果が確認されれば2050年までに所有する約630台全てを電気バスに切り替えたいとしています。

# Introduction of E-Buses (in 2021)



**× 2 units**



**× 1 unit**

**× 4 vehicles**

# Introduction of E-Buses

## Balancing environmental issues with economic efficiency

### ■ Outline of E-Buses

【Vehicles】 J6 small electric bus manufactured by BWD Japan Co.

【Number of buses】 4

【Responsible Office】 Keihan Bus Rakunan Office (Fushimi-ku, Kyoto)

## ① Environmental Issues

CO2 emissions **reduced by 38.8t per vehicle**  
(4 vehicles, total 155.2t reduction)



## ② Economic Efficiency

Per vehicle per year

**Reduced Energy costs: Approx. 1 Million Yen**

**Reduced Maintenance costs: Approx 0.82 Million Yen**

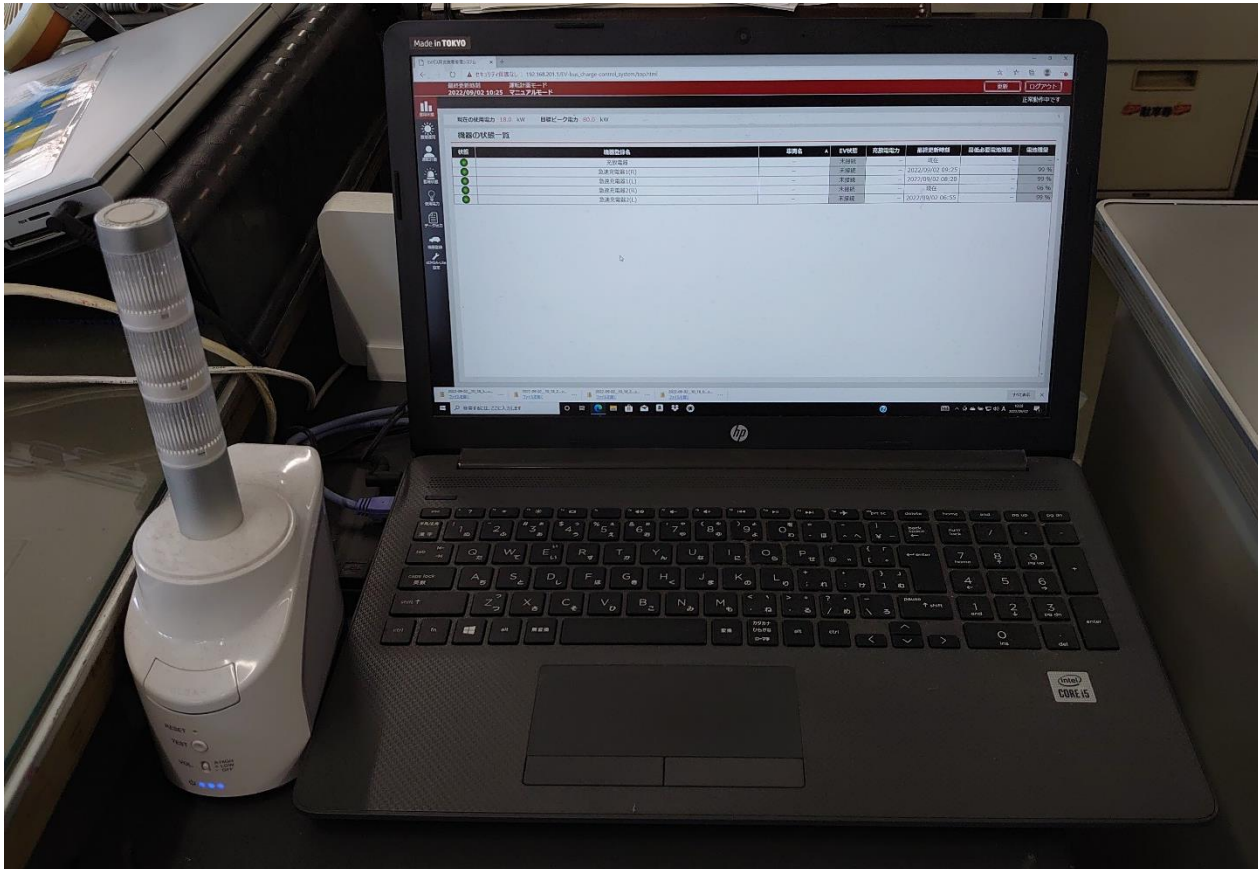
Comparison of energy costs between electric and diesel (theoretical value)

E-bus 0.4 Million Yen

Diesel engine bus 1,43 Million Yen

# Introduction of E-buses

## Charge Management



9月10日7:00～10月1日23:59の充電スケジュール【土曜・休日】

時間	EV1	EV2	EV3	EV4	時間	EV1	EV2	EV3	EV4
	1R	1L	2R	2L		1R	1L	2R	2L
	F8001	F8002	F8003	F8004		F8001	F8002	F8003	F8004
	±156号車 休155号車	±159号車 休159号車	±155号車 休154号車	±152号車 休151号車		±156号車 休155号車	±159号車 休159号車	±155号車 休154号車	±152号車 休151号車
0時	0				12時	0			
	15					15			
	30					30			
	45			90%		45	52%		
1時	0				13時	0			
	15					15			
	30					30			
	45					45			60%
2時	0				14時	0			
	15					15			
	30					30			
	45		90%			45			
3時	0				15時	0			
	15					15			
	30					30			
	45					45		67%	
4時	0				16時	0			
	15					15			
	30					30			
	45					45	39%		
5時	0				17時	0			
	15					15			
	30					30			
	45	90%				45			47%
6時	0				18時	0			
	15					15			
	30					30			
	45					45	38%		
7時	0				19時	0			
	15					15			
	30	90%				30			
	45					45		56%	
8時	0				20時	0			
	15					15			
	30					30			
	45					45			
9時	0				21時	0			
	15					15			
	30					30			
	45			71%		45			
10時	0				22時	0			
	15					15			
	30					30			
	45		56%			45			
11時	0				23時	0			
	15					15			
	30					30			
	45	62%				45			

# Introduction of electric buses

Cruising distance and estimated power consumption by vehicle block diagram

駐車枠	社番	号車	運行スケジュール等	総航続距離/日
EV1	F8001	土曜156号車 休日155号車	運行スケジュール 航続距離 目安消費電力(%) 	131.6 km
EV2	F8002	土曜159号車 休日159号車	運行スケジュール 航続距離 目安消費電力(%) 	92.7 km
EV3	F8003	土曜155号車 休日154号車	運行スケジュール 航続距離 目安消費電力(%) 	109.3 km
EV4	F8004	土曜152号車 休日151号車	運行スケジュール 航続距離 目安消費電力(%) 	125.9 km

From the guideline (according to test run data)

How many kilometres can you travel per 1 % of power consumption? .... 1.3km/%

What percentage is consumed per 1km of cruising distance? .... 0.8%/km



# Introduction of E-buses

Projected **energy cost savings per year**, calculated from actual values for 4 vehicles

**4,111,588円**

**When applied to 600 vehicles, savings per year will be**

**616,738,200円**

**CO2 -23,280t**

# Introduction of E-buses

- **In 2017, starting considering introduction**
- **In 2018, inspection visit to BYD Office in Shenzhen, China**
- **In 2021, introduction of 4 small e-buses**
- **In 2022, introduction of 5 large e-buses**
- **In 2023, introduction of 5 large e-buses (10 buses at same office)**

**Future plans include, among others, the introduction of strategic energy management**

# Introduction of E-buses

## Cooperation Agreement with Hirakata City

A partnership agreement was signed with Hirakata City to reach "virtually zero carbon dioxide emissions by 2050"

(Cooperation items:)

- The use of E-buses.
- The promotion of energy conservation and renewable energy.
- The promotion of the use of Public Transportation.
- Other issues relating to the promotion of practically zero carbon dioxide emissions.



# Introduction of e-buses

Five large e-buses to be used for the Osaka World Expo in 2025



# Initiative towards Autonomous Driving (Objectives)

## Autonomous Buses

### Objectives

- ① Accident Reduction
- ② Measures Against Driver Shortage
- ③ Punctuality (congestion reduction)

日本経済新聞 (夕刊) 1 4版 2017年(平成29年)9月14日(木曜日)

### けいはんな 自動運転実験

## パナソニック・京阪バスなど9社

関西文化学術研究都市(けいはんな学研都市)で年内にも公道での自動運転の実証実験が始まる。パナソニックや日本電産、オムロンなどが参画し飛び出しなどの検知性能の確保に着手。京阪バス(京都市)は走行システムの高安全性を高め路線バスへの搭載を目指す。参加企業、団体を限定しない全国でも珍しい取り組みで関西発の新技術の開発、実用化を目指す。

学研都市中心部が自動運転の実験場に

### 公道 年内にも 車道にセンサー

実験は公益財団法人の関西文化学術研究都市推進機構(京都府精華町)で進む。この実験が主体となる自動運転車が走るルートを設定する。JR学研都市線の祝園駅(同)や近鉄京都線の本津川台駅(京都府木津川市)などけいはんなの中心地を通るルートが条件を満たす企業・団体が想定されており、車道にセンサーを埋め込むなど、同機構では自動運転インフラ整備を進める。パナソニックや京阪バス、日本ユニシス、日立マシセルなどが実験参加を呼びかけており、当初はスタートアップ企業の参画で技術開発が活発になる。走行システムの安全効果も期待される。

けいはんなでは一定の条件を満たす企業・団体が実験に参加でき、同機構では自動運転インフラ整備を進める。パナソニックや京阪バス、日本ユニシス、日立マシセルなどが実験参加を呼びかけており、当初はスタートアップ企業の参画で技術開発が活発になる。走行システムの安全効果も期待される。

実験は公益財団法人の関西文化学術研究都市推進機構(京都府精華町)で進む。この実験が主体となる自動運転車が走るルートを設定する。JR学研都市線の祝園駅(同)や近鉄京都線の本津川台駅(京都府木津川市)などけいはんなの中心地を通るルートが条件を満たす企業・団体が想定されており、車道にセンサーを埋め込むなど、同機構では自動運転インフラ整備を進める。パナソニックや京阪バス、日本ユニシス、日立マシセルなどが実験参加を呼びかけており、当初はスタートアップ企業の参画で技術開発が活発になる。走行システムの安全効果も期待される。

性などを確認する。京阪バスでは検証結果を踏まえ、2020年をメドに路線バスでの自動運転の実用化を目指す。

自動運転を巡っては国が主導し、実証実験の制約となる規制の緩和に動いている。関西以外では自動運転車が実用化を進めているほか、愛知県などの地方自治体、金沢大学や群馬大学による実験も始まった。全国各地で進むこうした実験が主体となる自動運転車が走るルートを設定する。JR学研都市線の祝園駅(同)や近鉄京都線の本津川台駅(京都府木津川市)などけいはんなの中心地を通るルートが条件を満たす企業・団体が想定されており、車道にセンサーを埋め込むなど、同機構では自動運転インフラ整備を進める。パナソニックや京阪バス、日本ユニシス、日立マシセルなどが実験参加を呼びかけており、当初はスタートアップ企業の参画で技術開発が活発になる。走行システムの安全効果も期待される。

### 学研都市で自動運転実験

けいはんなパナなど9社参加へ

京都・大阪・奈良の3府県にまたがる関西文化学術研究都市(けいはんな学研都市)で、年内にも公道での自動運転技術の実証実験が始まる。パナソニックや京阪バス、オムロンなどが参加予定で、多数の企業や団体による自動運転の実証実験は珍しいという。

実験を主導する公益財団法人「関西文化学術研究都市推進機構」(京都府精華町)が22日、発表した。けいはんなオープンインベーションセンターなどの施設内で、28日から車載カメラやセンサーなどの実験を開始し、年内にも同センター周辺の公道への拡大を目指す。

機構が異業種交流の場として運営するコンソーシアム加盟の75の企業や大学が実験に参加可能。実験は当面、ドライバーが乗り込む

けいはんなオープンインベーションセンター

でを行うが、将来的には人が運転に関与しない「完全自動運転」を目指すという。自動運転車に住民が試乗することも計画している。

# AV-Bus Initiative (June 2018 Agreement with Otsu City, on the application of autonomous driving)



with

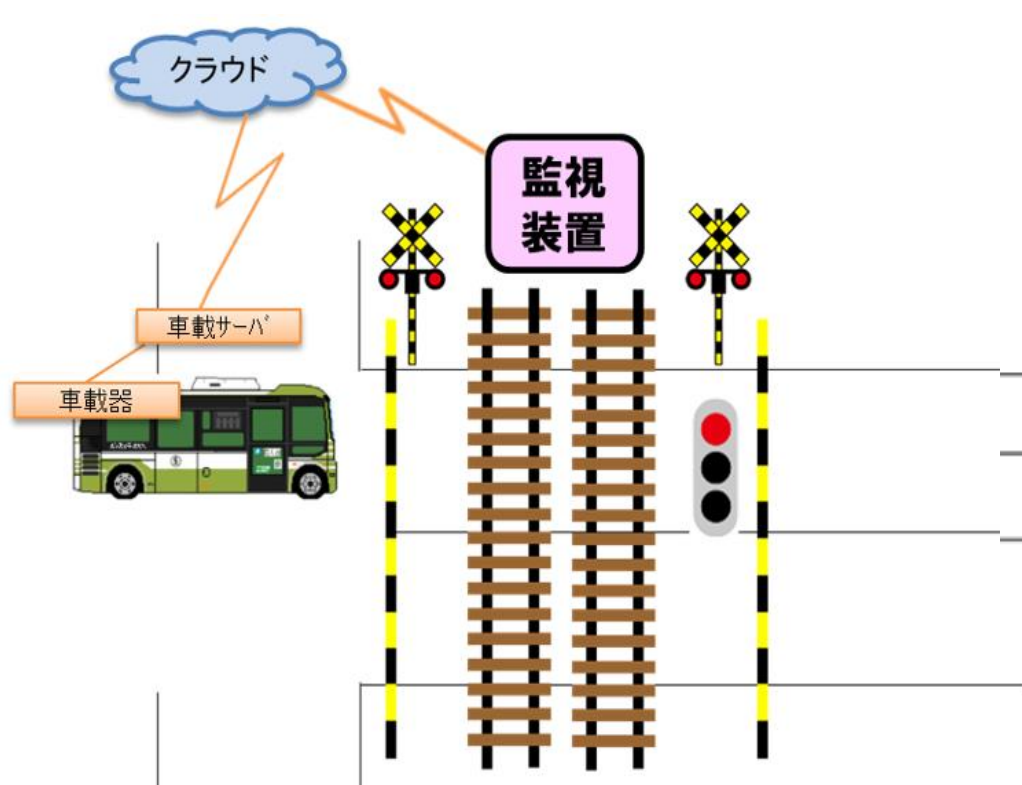


## AV-Bus Application Project Members

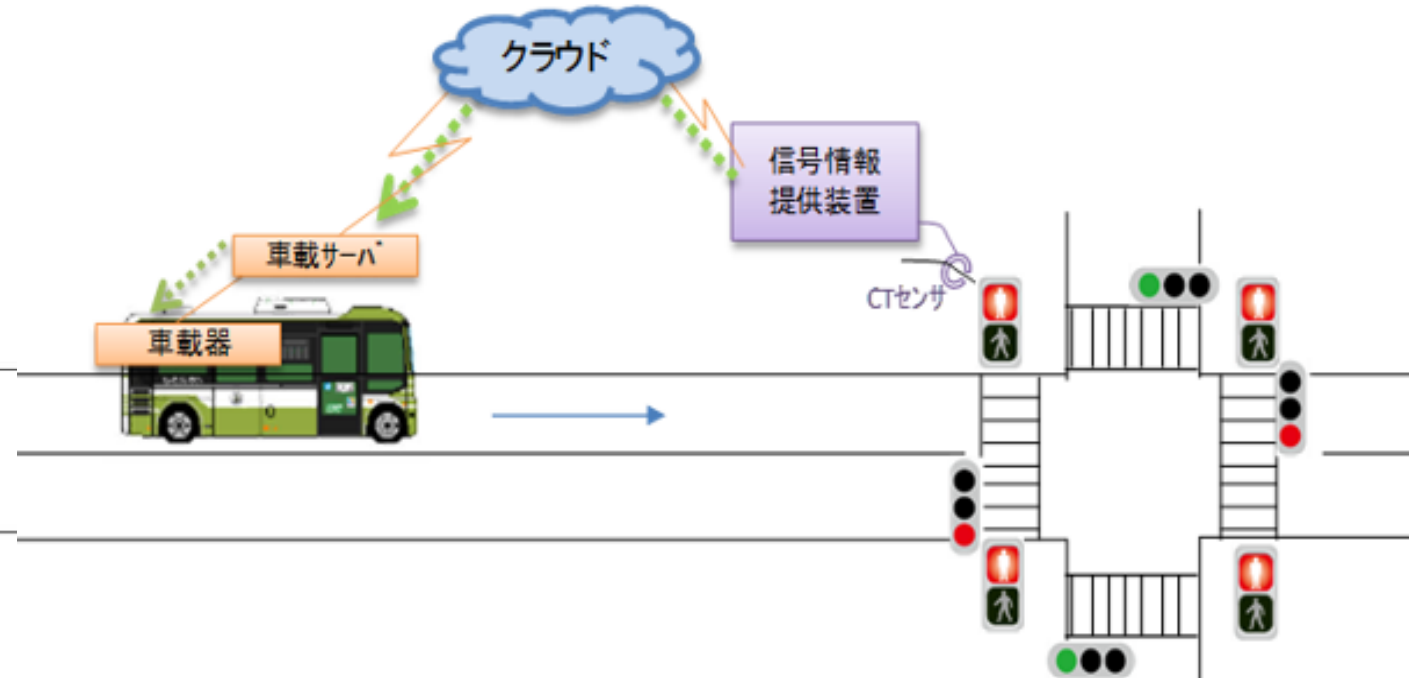
Uno, N.	Kyoto U., Professor
Suda, Y.	Tokyo U., Professor
Suzuki, K.	President and Representative Director, Keihan Bus Co.
Okubo, S.	Keihan Bus Co.
Nagashima, N.	Director, Nihon Unisys, Ltd
Otsu City, Police, MLIT, METI, Shiga Prefecture, etc.	

# AV-Bus Initiative (Road-side implementation)

## Level crossings



## Traffic lights



# AV-Bus Initiative (Safety Enhancement with Magnetic Markers)

Installed **magnetic markers** along the section from the Owanohama 1-chome intersection to the entrance of Biwako Otsu Prince Hotel, **where GPS reception was poor** (1,353 markers in total for the round trip)  
**✘Both the installation and maintenance costs are high**





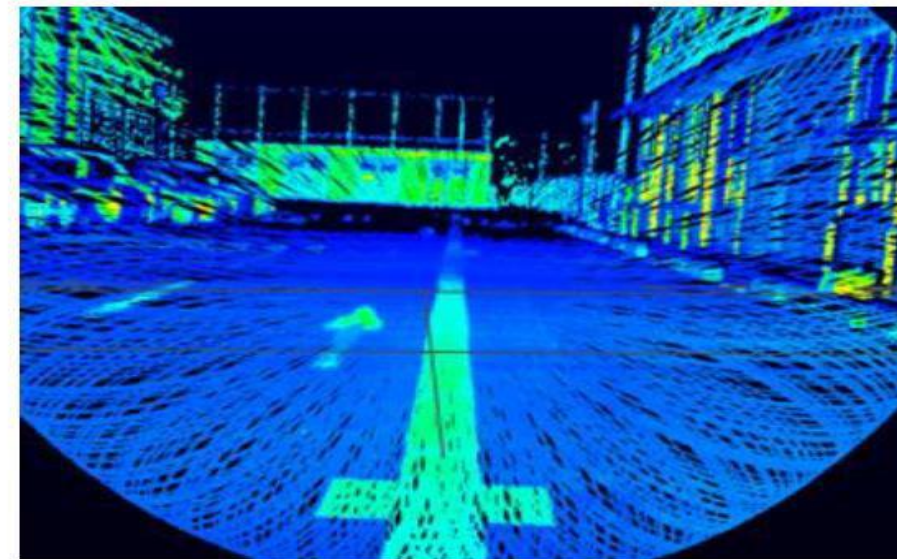
# AV-Bus Initiative (Cost Reduction, Safety Enhancement)

## Line Trace Paint

- **Special Paint** is applied on the road so that the **LiDAR system can recognise its own position**.
- Almost the entire route, except for the central boulevard, is painted to prevent deviations from the running route.
- **Short construction period and low cost** compared to magnetic markers



Target line checked by drivers' eyes



Target line checked by the sensor

# AV-Bus initiative

(Cashless payment by NFC-tags/smartphones)



## 乗車⇒購入



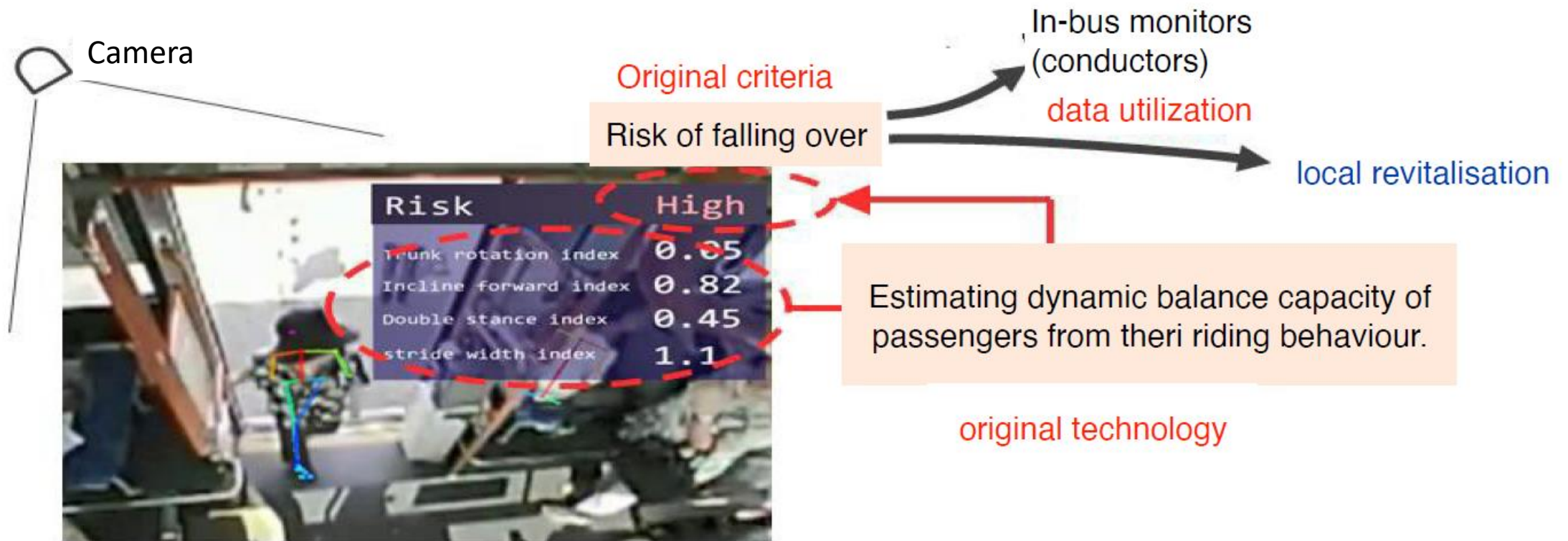
## 降車



# AV-Bus initiative (In-bus monitoring)

Installation of cameras to assist passenger monitoring.

Verification of the availability of a notification system for passenger feature information (i.e. whether a passenger is likely to fall over)



※Image taken on a chartered bus. Ethical Review (No.0066), Aisin Seiki Co.

# Introduction of AV E-buses

February 2023

Implemented  
autonomous driving  
on E-buses

(one month trial)



# Introduction of AV E-bus experiment



- ### 自動走行制御
- 車線維持制御
    - GNSS (GPS)
    - SLAM
    - 磁気マーカ検知
    - ターゲットライン検知
  - 速度維持制御
    - インフラ情報の活用
    - ACC機能
  - 障害物回避制御
    - AI・高精度地図の活用
  - バス停正着制御

**no.01**  
**自動運転**  
 運転操作をシステムが行う自動運転は、5段階のレベル分けがされています。今回の自動運転では、システムが前後・左右の両方の車両制御に係る運転タスクの一部タスクを実施する自動運転レベル2に位置付けられます。

**no.02**  
**EV(電気)バス**  
 走行中の二酸化炭素排出ゼロの環境にやさしいバスです。今回使用するバスの電池容量は105.6kWhで、これは一般家庭の約8日分の電力使用量に相当するものです。災害時の非常用電源としても活用できます。2/8～2/28の間、運行します。

**no.03**  
**信号連携**  
 大津駅～びわ湖大津プリンスホテルの間の9基の信号機において、CTセンサで信号機(車両灯器と歩行者灯器)の灯色情報を検知し、信号情報を自動運転バスの車載器へ連携することで、信号の変わり目での無理のない走行を支援します。バス車内のモニターにも信号情報が表示されるので、ぜひ、注目してみましょう。

**no.04**  
**踏切連携**  
 大津駅～琵琶湖ホテル間にある京阪電気鉄道踏切の遮断機に監視装置を設置し、遮断機の状態や電車の接近情報を自動運転バスの車載器と連携することで、踏切における安全で無理のない走行を支援します。

**no.05**  
**磁気マーカ**  
 道路に磁気マーカと呼ばれる磁石を埋設し、マーカが発する磁気を車両側で感知し、車両の位置を特定するものです。におの浜一丁目交差点～びわ湖大津プリンスホテル入口までの運行区間上に1,353個のマーカが埋設されています。磁気マーカの大きさは500円玉硬貨の大きさに近いものです。

**当社初!**  
**no.06**  
**ターゲットラインペイント**  
 道路に、自動運転バスに搭載されているLiDARと呼ばれるセンサだけが、認識できる塗料を塗り、走行ルートの逸脱を防止するものです。琵琶湖ホテル～びわ湖大津プリンスホテル間の道路に施工しております。日本ペイント・インダストリアルコーティングス開発の最新技術です。

# AV-bus initiative (2025 Osaka World Expo)



# AV-bus initiative (2025 Osaka World Expo)

## 万博開催時の計画概要

- 場 所 : 淀川左岸線2期区間と1期区間の海老江JCT~大開出入口(予定)
- 実施時期 : 万博開催期間中(詳細な運行期間・頻度は未定)
- 道路側設備 : 磁気マーカ、ターゲットラインペイント(塗料)、検知センサ、通信機器類
- 使用車両 : 10.5m(大型)路線バスタイプ車両(EVバス)
- その他 : 運賃等や便数についてはその他の駅シャトルバスの検討にあわせ、今後検討
- 特 徴 : 高速道路における合流支援、先読情報の受信等



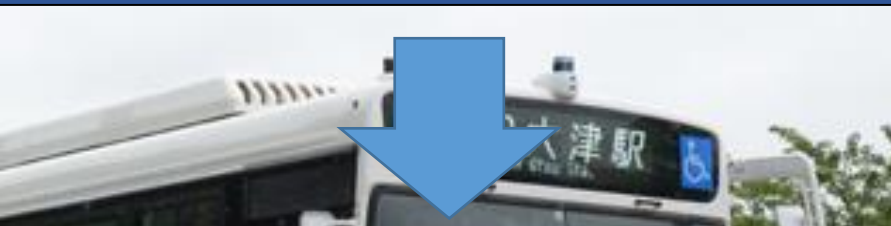
車両イメージ写真(出典:ビーワイディージャパン株)

# “Initiatives for the Future”

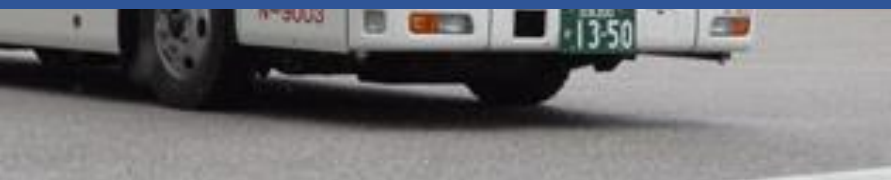
## AV-Buses

## MaaS

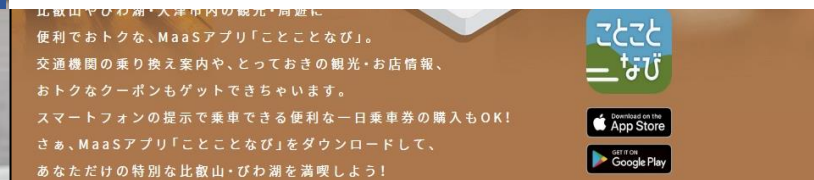
## E-Buses



Measures Against Driver Shortage



Measures to Promote Bus Usage



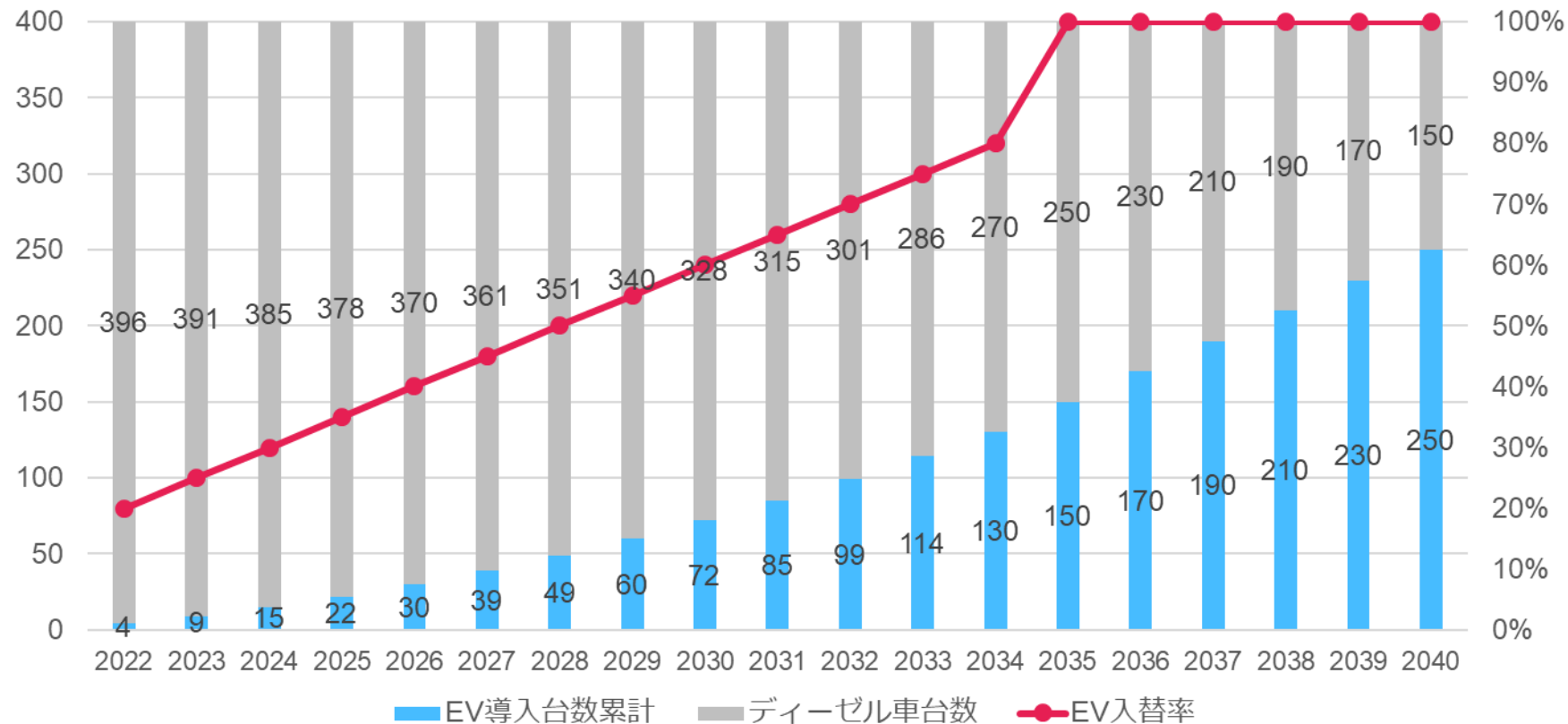
Measures to Reduce CO2 and costs



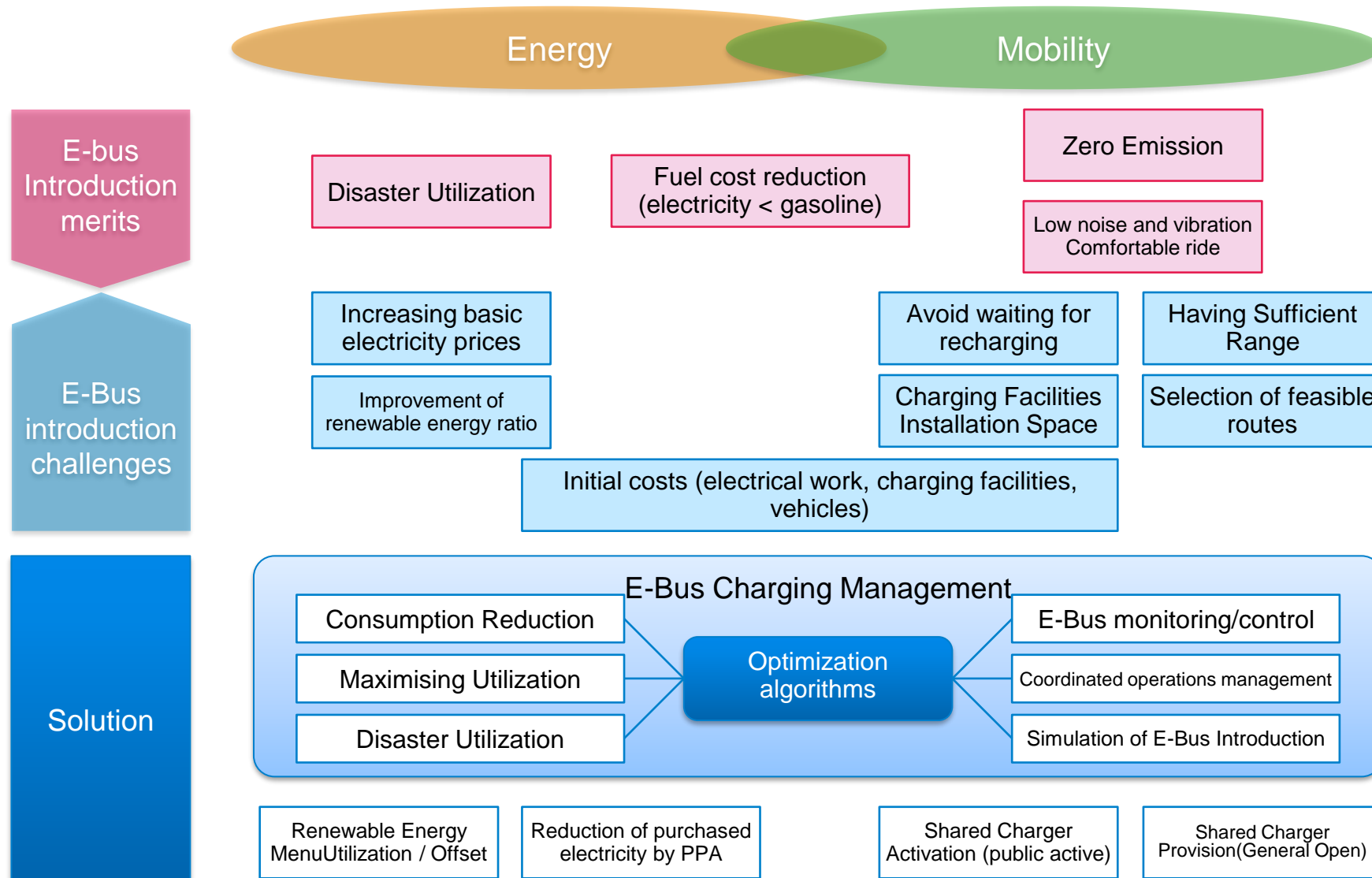


# Simulation of introduction assuming electric buses only

- The conversion of buses to EVs is expected to be phased in over the useful life of the buses, with the goal of stopping diesel vehicle sales by 2035.
- The following is an image of the EV bus introduction plan for a bus operator with 400 buses
- Assuming a useful life of 20 years for the buses and 20 new buses per year.

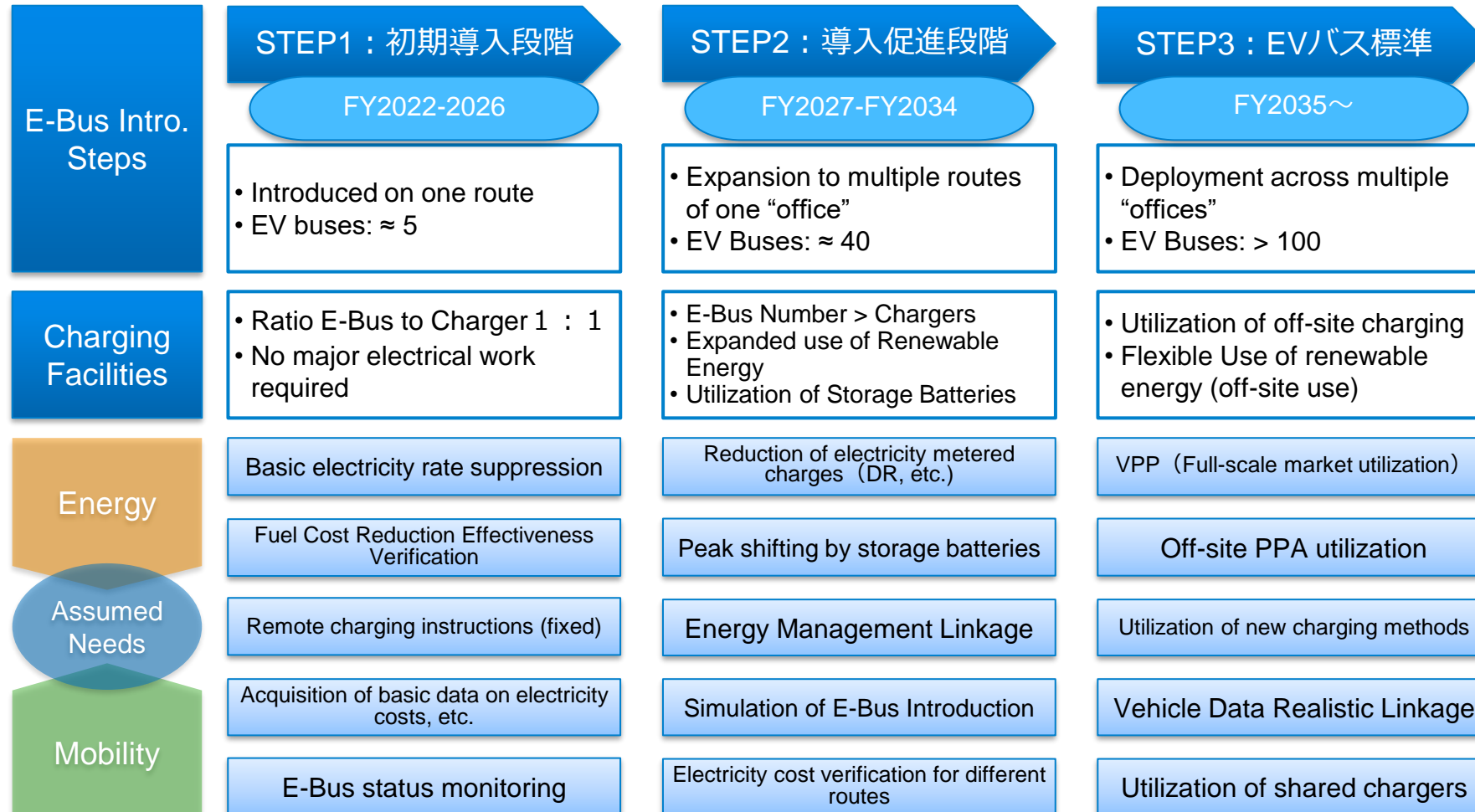


# Benefits/challenges/solutions of introducing electric buses from an energy and mobility perspective



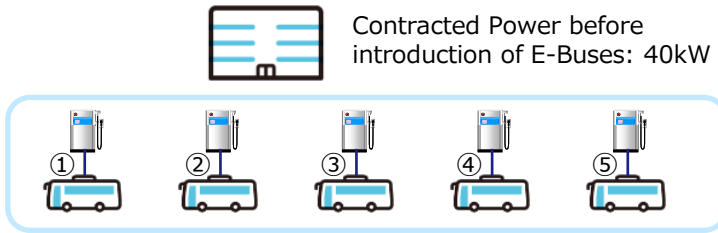
# Steps to widely introduce E-buses

- EV buses are expected to be introduced in phases, but each STEP has different issues, and the needed solutions will differ



# Image of basic rate suppression through E-Bus charging management

Assumed Environment: 5 E-buses, 5 Chargers

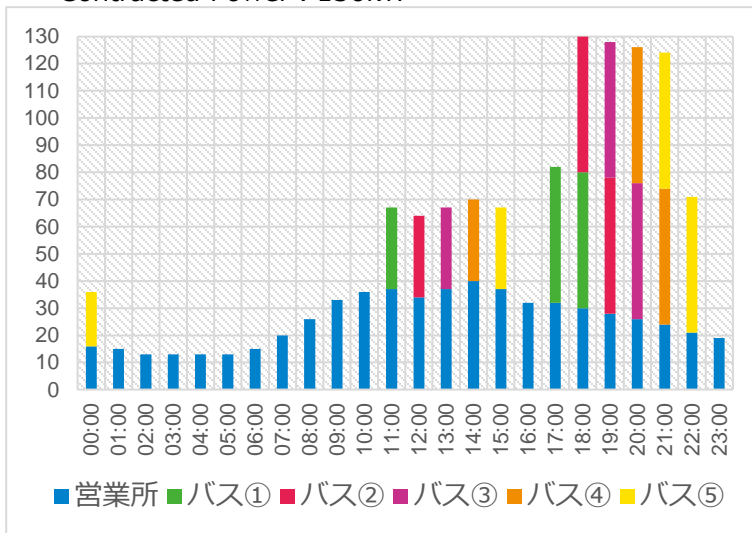


Basic E-Bus Information BYD K8: 81 passengers

Range	220km	From BYD catalog
Battery Capacity	287kWh	From BYD catalog
Elec. Consump.	0.77km/kWh	[Range]/[Battery capacity]
Av. Distance	100km/日	Assumed, tentative
Required Charge	130kWh/日	[Av. Distance]÷[Elec. Consump]

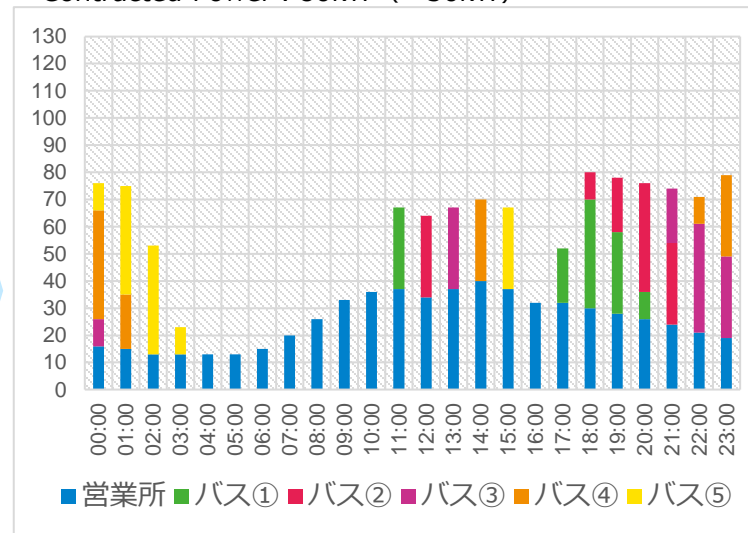
## 1. Manual Charging

Contracted Power : 130kW



## 2. System-Controlled Power

Contracted Power : 80kW (-50kW)



System Implementation

**As a result of system control, it is possible to reduce the amount of electricity equivalent to 50 kW. ※1**

**In terms of electricity rates\*2, this can result in cost reductions of approximately 86,000 yen/month, or approximately 1,030,000 yen/year. ※2,3**

(\*1) Trial calculation based on our own data. The amount of possible reduction is based on a trial calculation and does not guarantee the effect. (\*2) The electricity unit price is based on TEPCO Energy Partner's commercial electricity (less than 500kW) (1,716 yen/kWh). (\*3) System usage fees are not included in the above cost reductions.



## Advantages of System Introduction

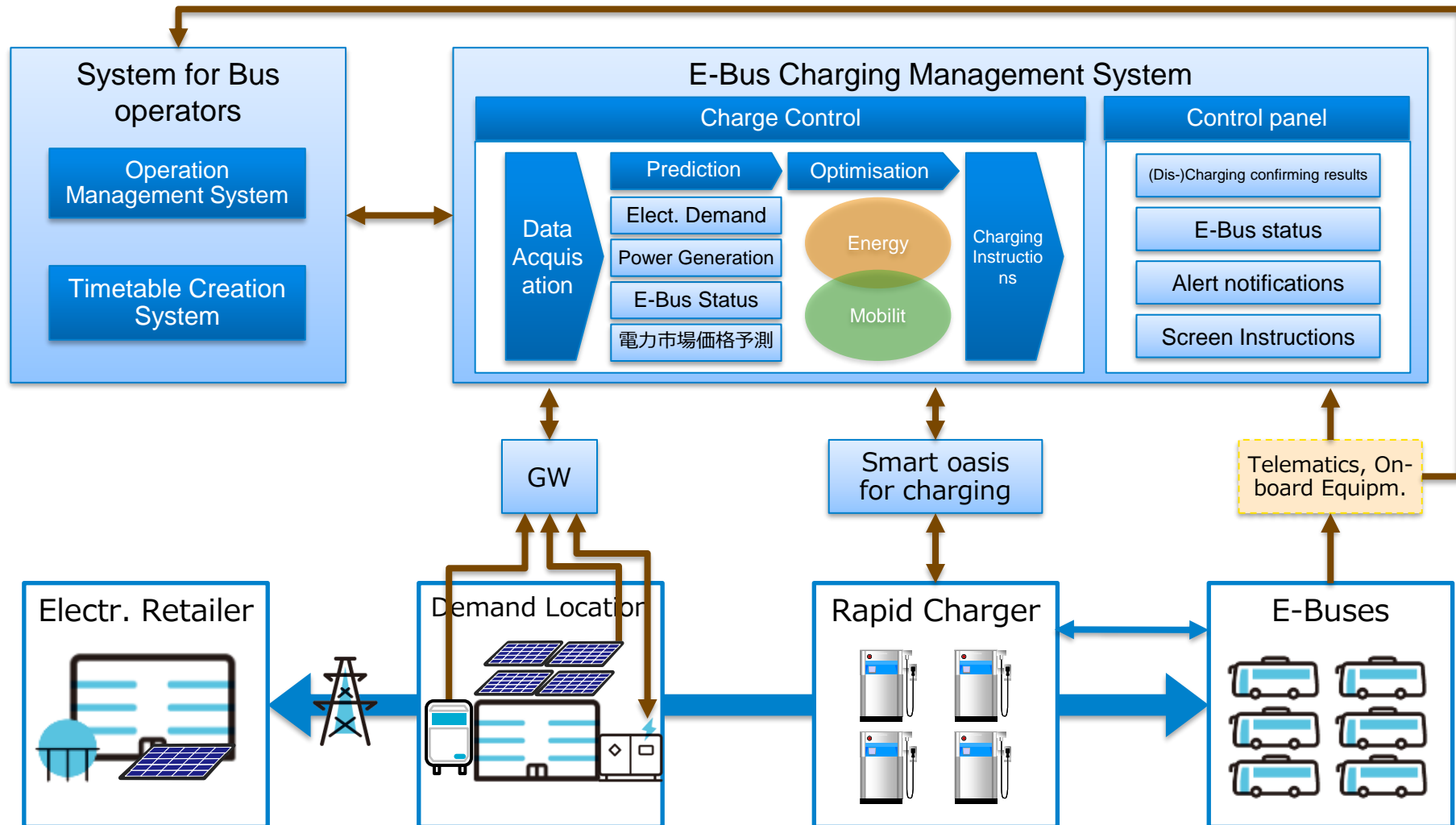
Cost Reduction

Remote Supervision

Automatic Operation

# E-Bus charge management system image

- Image of future E-Bus charging management system:





*ŌKUBO, Sonoaki*

*Manager*

---

KEIHAN BUS CO., LTD.

5, MINAMI ISHIDA CHO, HIGASHI KUJO, MINAMI-KU, KYOTO  
601-8033, JAPAN

Phone : +81-75-682-2310

E-mail : [ookubo-s@keihanbus.jp](mailto:ookubo-s@keihanbus.jp)

<https://www.keihanbus.jp>

